

Security Radar AI

よくある質問

使い始め、DNSでの所有確認、診断結果の読み方、再診断で迷ったときに確認するFAQです。まず、画面に表示されたメッセージと、対象ドメインの状態を確認してください。

対象バージョン：0.1.0 / 更新日：2026年10月18日

画像は実際の画面コンポーネントをサンプル値で表示した説明用の画面です。画像のドメイン名や確認値を、実際のDNS設定に使用しないでください。

読む順番

1. 目次から、いま困っている操作を選びます。
2. 質問を読み、画面の表示や設定を照合します。
3. 解決しない場合は、必要な情報を管理者に伝えます。

目次

1 使い始めとドメイン登録	3
2 所有確認とDNS	4
3 診断の開始と回数制限	6
4 結果の読み方	7
5 修正と再診断と履歴	8
6 画面や通信のトラブル	10
7 共通ログインと企業の切替	11

1 使い始めとドメイン登録

Q1 ログインやアカウント作成は必要ですか

本番の業務機能には、かちっとクラウドの共通アカウントでのログインと、対象企業の契約・サービス利用権限が必要です。ログイン後、利用権限を確認した企業のデータを表示します。公開トップページとログイン導線は、ログインせずに開けます。共通認証を無効にしたローカル開発環境では、固定のログイン不要ワークスペースを利用できます。本番で認証を無効にすると業務機能は利用できません。環境の設定は管理者が[共通認証の導入手順](#)を確認してください。

Q2 ドメインやDNSがわからなくても使えますか

ドメインは `example.com` のようなサイトやメールの名前、DNSはその接続先やメールの設定を保存する仕組みです。診断を始めるにはDNSへのTXTレコード追加が必要です。DNSを自分で管理していない場合は、担当者に所有確認画面のホスト名と値を伝え、追加を依頼します。

Q3 URLをそのまま入力できますか

HTTPまたはHTTPSのURLを入力できます。`https://www.example.com/page` は `www.example.com` に変換されます。パス、クエリ、フラグメント、ポートは診断対象から除かれ、サブドメインは残ります。ユーザー名やパスワードを含むURLは入力しないでください。

Q4 どのドメインでも診断できますか

自分に所有・管理権限がある公開ドメインだけが対象です。DNS TXTレコードで確認します。IPアドレス、社内専用のホスト名、非公開IPに接続する対象は診断対象外です。

Q5 `example.com`と`www.example.com`は同じ対象ですか

別の対象です。登録したホスト名を直接確認し、`www` を取り除く処理は行いません。DMARCの親ドメインからのポリシー継承も診断しません。自社で確認したいホストを選び、必要ならそれぞれ登録します。

Q6 登録数の上限やドメインの削除機能はありますか

共通認証モードでは企業ごとの上限です。契約の上限が設定されている場合はその値と20件の小さい方、未設定なら20件まで登録できます。ローカルの旧ワークスペースでは全体で20件です。現在、画面からドメインを削除・変更する機能はありません。間違えて登録した場合や上限に達した場合は管理者に相談してください。

2 所有確認とDNS

DOMAIN OWNERSHIP

DNS TXTレコードで所有確認

DNS管理サービスに、以下のTXTレコードを追加してください。診断時にも再確認するため、登録したレコードは残してください。

1

種別	TXT	
ホスト名	<input type="text" value="_security-radar.example.com"/>	<div>コピー</div>
値	<input type="text" value="security-radar-verification=DEMO-NOT-A-REAL-TOKEN"/>	<div>コピー</div>

DNSサービスによってはホスト名欄に「_security-radar」だけを入力します。反映に時間がかかることがあります。有効期限：2026/11/11 16:00

2

3

所有権を確認する

確認トークンを再発行

再発行すると以前の値は無効になり、所有確認をやり直します。

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。所有確認の画面。1のDNS設定値を確認し、反映後に2の所有権を確認するを押す。期限切れの場合は3から再発行。

Q7 DNSのどの画面を開けばよいですか

対象ドメインのDNSレコードを管理しているサービスの画面です。ドメイン購入先、ホスティングサービス、専用のDNSサービスなど、契約先によって異なります。購入先とDNS管理先が同じとは限りません。不明な場合は社内の担当者や制作会社に確認します。

Q8 ホスト名には全部の文字列を入れますか

管理画面がドメインを自動で末尾に付けるかによって変わります。対象が `example.com` なら、完全な名前は `_security-radar.example.com` です。末尾が自動で付く画面では `_security-radar` を入力します。対象が `www.example.com` で、`example.com` の管理画面に追加するなら、相対名は `_security-radar.www` です。保存後の完成した名前をアプリの表示と照合します。

Q9 確認用TXTレコードが見つかりませんと表示されます

次の順に確認してください。

1. 種別がTXTか確認します。
2. 保存後のホスト名がアプリの表示と完全に一致しているか確認します。ドメイン名の二重付加にも注意します。
3. 値に `security-radar-verification=` から始まる文字列全体を入れたか確認します。余分な空白や文字の欠けがないか照合します。
4. 再発行した場合は、新しい値に更新したか確認します。
5. DNSサービスの案内に従って反映を待ち、アプリで「所有権を確認する」を押します。

DNSの反映時間は環境によって異なります。何度も続けて押すと回数制限に達する場合があります。

Q10 DNSから確認情報を取得できませんでしと表示されます

DNSの問い合わせに失敗した状態です。TXTが未登録だと断定する表示ではありません。時間をおいて再試行し、続く場合はDNSサービスやアプリの通信環境を担当者に確認してもらいます。

Q11 確認トークンの期限はどれくらいですか

発行から30日間です。期限切れの場合は「確認トークンを再発行」を押し、DNSのTXTの値を新しい値に更新して、再度所有確認します。再発行すると以前の値は無効になり、所有確認をやり直す必要があります。

Q12 所有確認できたらTXTを削除してよいですか

残してください。診断開始時にもDNSから同じレコードを取得し、値と期限を確認します。削除したり値を変えたりすると、次の診断を開始できなくなります。

Q13 コピーを押しても貼り付けられません

ボタンが「コピーしました」になったか確認します。ブラウザの制限などでコピーできない場合は、表示されたホスト名や値を手動で選択してコピーします。貼り付け後は元の値と一致しているか確認します。

3 診断の開始と回数制限

Q14 診断を開始のボタンが押せません

ドメイン詳細の所有確認が完了していないか、確認トークンが期限切れの可能性があります。「所有確認済み」の表示と有効期限を確認します。必要なら所有確認をやり直します。

Q15 前回の診断から5分後に再診断できますと表示されます

同じドメインの診断開始は、前回の診断開始から5分以上空ける必要があります。DNSの反映待ちとは別の制限です。設定が反映されていても、診断間隔を満たすまで待ちます。

Q16 別の診断が実行中または回数制限と表示されます

共通認証モードでは、選択中の企業ごとの制限です。同じ企業の他の利用者の操作と定期診断も診断枠を使います。認証なしのローカル開発環境では、固定ワークスペースを使う全利用者で枠を共有します。完了や制限の解除を待ち、ボタンを繰り返し押さずに再試行してください。

操作	上限
ドメイン登録数	企業ごとの契約上限と20件の小さい方。未設定なら20件。ローカルの固定ワークスペースは20件
ドメイン登録の回数	企業ごとに1時間の枠で20回
所有確認と確認トークン再発行	企業ごとに同じ1時間の枠で合計30回
診断開始	手動・定期を合わせ、企業ごとに1時間の枠で10回
同時に実行できる診断	手動・定期を合わせ、企業ごとに1件
同じ登録ドメインの診断開始間隔	手動・定期を合わせて5分以上

回数制限は毎時00分に切り替わる固定の時間枠で管理します。回数枠の確認後にエラーになった操作も計上するため、連続操作を避けてください。診断開始時のDNS所有再確認は診断枠に含まれ、上表の所有確認・再発行の枠は消費しません。詳しくは[診断方針](#)を参照してください。

Q17 診断に時間がかかるまたは診断中のままです

通常は数秒から十数秒程度ですが、取得に失敗する場合があります。しばらく待つて表示を更新します。中断された診断は次回実行時に回収されます。5分以上の診断間隔を満たして再試行し、続く場合は対象ドメイン、表示された状態、操作日時を管理者に伝えます。

4 結果の読み方



説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。未確認項目のある診断結果。1は一部未確認、2はTLSの取得状態、3は今回未確認・前回の課題。

Q18 診断完了なら安全ですか

「診断完了」は、DMARC、SPF、TLSの取得と判定が完了した意味です。課題がないという意味ではありません。未対応の課題と各項目の内容を確認します。

Q19 取得・判定済みと未確認はどう違いますか

「取得・判定済み」は必要な情報を取得し、判定できた状態です。「未確認」は通信失敗などにより判断できていない状態です。未確認の項目を、設定なしや正常とは扱いません。

Q20 スコアが横線のままです

診断結果に「未確認」があると、スコアは算出されません。ダッシュボードでは、未登録、未診断、所有確認未完了、トークン期限切れ、最新の診断試行で結果を更新できていない場合などにも「—」になります。各ドメインの状態、最新の診断結果、有効期限を確認します。

Q21 100点や未対応0件なら、ほかの確認は不要ですか

ほかの確認も必要です。スコアは公開DNSとTLSの基本設定についての参考値です。未対応0件でも未診断・未確認場合があります。Webアプリの脆弱性、社内端末、メール配信、すべてのCDN拠点などの安全性は保証しません。

Q22 HIGH、MEDIUM、LOW、INFOはどう読めばよいですか

HIGHから優先して内容を確認し、MEDIUM、LOWの順に対応を検討します。INFOは設定状況や取得失敗などの確認事項です。LOWのDMARC監視設定やSPFのsoftfailは、導入段階やサービスの推奨によって意図した設定の場合もあります。重要度だけで変更を決めず、課題の詳細を読みます。

Q23 今回未確認・前回の課題とは何ですか

今回の取得に失敗したため、前回の未対応課題を引き継いだ表示です。今回も同じ問題を観測したとは限らず、改善も確認できていません。時間をおいて再診断し、該当する項目を取得できた結果を確認します。

Q24 うちはメールを送信しません。それでもDMARCやSPFを確認しますが

このアプリは、登録されたホストのDMARCとSPFを確認します。実際にメールを送っているかは判定しません。送信しないドメインも、利用状況をメール管理者と確認し、課題の説明に沿って適切な方針を検討します。

5 修正と再診断と履歴

1

参考スコア

100 / 100

公開設定の参考値です。安全性を保証しません。

DMARC

取得・判定済み

SPF

取得・判定済み

TLS

取得・判定済み

2

改善を確認できた課題

3 件の改善

● HIGH TLS 改善確認済み

TLS証明書の有効期限が切れています

→

説明用サンプル画面の操作箇所を抜粋。再診断の結果。1は新しい参考スコア、2は改善を確認できた課題。

Q25 アプリが自動で設定を修正してくれますか

自動修正は行いません。課題の「推奨する対応」「確認方法」を読み、利用中のDNS、メール、ホスティング、CDNなどの管理画面で担当者が変更します。

Q26 修正したのに同じ課題が表示されます

古い結果を開いていないか、設定が反映されたか、対象のホスト名が正しいかを確認します。5分以上の診断間隔を満たして再診断し、新しい日時の結果を開きます。「今回未確認・前回の課題」なら今回の取得が失敗しているため、改善の確認は保留です。

Q27 改善確認済みにはどうすれば変わりますか

設定変更後に再診断し、該当する項目の取得に成功して、前回の課題に該当する条件が検出されなくなると、新しい結果に「改善確認済み」と表示されます。手動で完了にする機能はありません。違う課題が検出される場合もあるため、新しい結果全体を確認します。

Q28 改善したのに古い履歴には課題が残っています

古い結果は診断時点の記録として保持されます。再診断で過去の結果を書き換えません。対応後の状態は、新しい日時の結果で確認します。

Q29 自動で定期診断したり、メールで通知したりできますか

できます。所有確認後、ドメイン詳細の「定期診断と通知」で日次・週次診断と変化通知を有効にします。管理者が定期診断ワーカーを起動する必要があります。共通ログイン環境では実行時の権限確認設定も必要です。メールはSMTP接続設定が完了すると、設定した利用者の確認済み共通アカウントへ通知できます。[定期診断と変化通知](#)を参照してください。

Q30 なぜドメイン診断にはAI用のAPIキーが不要なのですか

ドメイン診断の課題・重要度と日本語の説明は、診断ルールと固定テンプレートから生成するため、LLMのAPIキーは不要です。この診断処理では外部LLMへ情報を送りません。

別機能の「社内AI窓口」は、管理者による企業別のOpenAI接続設定が必要です。管理者・編集者が送信に同意し、サーバー側の機密候補チェックを通過した本文を外部APIへ送ります。送信処理の回数枠は企業ごとに1時間30回です。ブラウザ内のAI送信前チェックだけなら外部送信は行いません。詳しくは[漏洩リスク対策](#)を参照してください。

6 画面や通信のトラブル

Q31 画面を表示できませんでしたと出ます

まずページを再読み込みします。直らない場合は管理者に連絡します。ローカル環境を管理している人は、開発サーバーのエラーとデータベースの起動状態を確認します。`DATABASE_URL_REQUIRED` はDB接続設定の不足を示します。準備手順は[README](#)を確認し、既存の `.env` を上書きしないでください。

Q32 画面は見えますが、登録や所有確認でエラーになります

表示されたメッセージを読み、対象ドメイン、所有確認、回数制限を確認します。ローカル運用の管理者は、ブラウザで開くURLと `APP_ORIGIN` の一致も確認します。`localhost` と `127.0.0.1` は別のアクセス元として扱われ、ポート番号の違いも影響します。

Q33 管理者には何を伝えればよいですか

対象ドメイン、操作した日時（日本時間）、押したボタン、表示されたエラーメッセージ、診断結果の日時と状態を伝えます。画像を渡す場合は確認トークンなど不要な情報を隠します。パスワードやAPIキー、DB接続文字列、`.env` の内容は送らないでください。

操作を最初から確認したい場合は[利用マニュアル](#)、管理者向けの起動・準備は[README](#)、詳しい診断範囲は[診断方針](#)を確認してください。

7 共通ログインと企業の切替

Q34 ログインできたのに企業を選択できません

企業への所属だけでなく、Security Radarの契約とサービスの利用権限が必要です。共通基盤の企業管理者に確認してください。契約の停止・終了や、共通基盤の接続元制限でも利用できなくなります。

Q35 別の企業のドメインが見当たりません

画面の企業名を確認します。画面上部のプルダウンで目的の企業を選び、「切替」を押します。企業ごとにドメイン・診断・課題・履歴を分けて表示します。切替先に表示されない場合は、その企業の利用権限を管理者に確認してください。

Q36 登録フォームがなく、診断ボタンが押せません

「閲覧権限で利用しています」と表示されている場合は、閲覧者ロールです。登録、所有確認、トークン再発行、診断は管理者・編集者が実行します。共通基盤の企業管理者に、操作の依頼またはロールの確認をしてください。

Q37 利用する企業が変わりましたと表示されます

別タブなどで企業を切り替えた後、古い画面から更新した可能性があります。画面を再読み込みし、企業名を確認してから操作してください。意図しない企業へドメインを登録しないための確認です。